

腹部超音波検査



腹部超音波検査は、超音波の性質を利用して、腹部の臓器の状態を調べる検査です。

ベッドに仰向けになっていただき、ゼリーを塗ったプローブ（探触子）をおなかにあて、検査します。観察部位によっては、座位や横向きになっていただくこともあります。

まったくの無害で、数分間横になっているだけで苦もなく検査を受けることができます。

腹部超音波検査では、画面で肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓、大血管などの臓器を観察し、異常がないか調べることができます。

この検査は空腹状態で受診していただくことが望まれます。胃の内容物に隠れて、膵臓が見えにくくなったり、消化のために胆のうが収縮して見えにくくなる可能性があるためです。

ただし、皮下脂肪の多い方では超音波が深いところまで十分届かず、分かりにくいことがよくあります。また、空気が溜まった胃が膵臓の上に被さったようなときには、空気は超音波を通しませんので膵臓がよく見えず、検査が不十分になることがあります。

超音波は密度が異なった物体の境界で反射します。探触子から超音波を発射し、反射波が戻って来るまでの時間と反射波の強さをコンピューターで自動計測し、臓器や組織などの場所と形を画面に写し出すようにしたのが超音波検査です。

超音波の反射が少ないとその部分の画像は暗く（黒く）写り反射が多いと明るく（白く）写ります。

